

Title	ベンチャー企業における人材研究
Sub Title	
Author	藤崎友子(Fujisaki, Tomoko) 千本倅生
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1374号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1374

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1374

学生氏名

藤寄 友子

主査 千本 倅生

副査 石田 英夫

矢作 恒雄

所属

千本 倅生 研究室

ベンチャー企業における人材研究

ベンチャー企業は、起業家1人では成り立たず、経営資源である人材の力なしでは発展は考えられない。また、構成要因である人材の仕事ぶりで、ベンチャー企業の業績は左右される。この様にベンチャー企業において重要な位置を占める人材であるが、人材に関しての研究はまだ始まったばかりである。

この修士論文では、「ベンチャー企業において起業家以外に特にどういう能力を持った人材を必要としているか」を明らかにしていくのが目的である。

研究方法として、文献研究と事例研究を行った。文献研究は、労働省による人材研究、早稲田アントレプレヌール研究会による人材研究、百瀬恵夫・森下正によるパートナー研究、ジェフリー・A・ティモンズによる経営チーム研究を分析した。また、事例研究は、株式会社ドトールコーヒー、翼システム株式会社、テンプスタッフ株式会社、株式会社ソリューション(仮名)の代表取締役社長等に直接インタビューする形式で研究した。

その結果明らかになったことは、第一にどの成長段階においても課題対応能力が必要とされることである。第二に、成長段階に応じて兼務のための幅広い経営知識と専門知識の重要度が変化するということである。